

第 41 回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会

1. 行事の名称 第 4 1 回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会
2. 行事の場所 水上館（群馬県利根郡みなかみ町小日向）
3. 行事の期日 平成 17 年 11 月 1 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 15 分
4. 行事の概要

人とのふれあいや様々な体験と学習の展開が図れる修学旅行は、新しい教育の目的を十分果たし得る教育活動の実践の場であり、優れた修学旅行の実践研究を広く公開し修学旅行の改善向上をめざして、群馬県 2 校の実践発表並びに研究協議を行うとともに、関東地区公立中学校修学旅行委員会研究委員会の活動及び研究報告を行った。

また、群馬教育委員会義務教育課指導主事 鈴木佳子先生による指導講評では、子どもたちが最大の関心を寄せる学校行事において、最大限の教育効果を引き出す工夫や、総合的な学習の時間のねらいと特別活動としての修学旅行のねらい・学習内容を両立させる指導計画が必要と、子供たちの総合的な力を引き出す場としての学校行事の重要性について示唆に富んだ指導助言を得た。

(1) 関東地区公立中学校修学旅行委員会活動(研究調査)報告

研究委員長 治田 正 校長(沼田市立沼田西中学校)

(2) 研究発表テーマ・発表校

発表会主題 「修学旅行における『学び』の創造」

<研究発表 1 >

「見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良」

-体験的な活動を通して成長する生徒を目指して-

沼田市立薄根中学校 小淵 誠 教諭、須田 秀昭 教諭

<研究発表 2 >

「生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行」

-総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して-

渋川市立金島中学校 栗原 和彦 教諭

(3) 研究協議

(4) 指導講評

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 鈴木 佳子 先生

(5) 研究発表会へは、群馬県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、の校長・教諭 112 名の参加があった。

アンケートより

回答数 46 件

1. 関東地区公立中学校修学旅行委員会の活動報告について

全般

- 活動内容の要点の発表、分析と考察の明確な報告、限られた時間の使い方が上手で、分かりやすくよかった。(5)
- 貴重なデータと細かな分析は、大変意義あるものであった。
- 調査結果を生かし、他校の良いところを参考にしながら、各校とも計画的に工夫していることがわかった。
- 参加者は校長でなく、実際の実践の中心である教諭(主任)等がのぞましい。
- アンケート調査結果が参考になった。旅行のみの指導でなく、日常生活指導(家庭、学校とも)の大切さは、修学旅行を充実したものであるかどうかにかかっている。
- 大規模なアンケートにより、修学旅行における各県の状況や危機管理についての理解が深まった。
- アンケート参考になった。学校にもどり、参考にして検討していきたい。(3)
- 全国的な現在の修学旅行の実施状況がよくわかり参考になった。
- 関修委という言葉は知っていたが、それ以外の活動内容等は知らないことが多く、報告を聞いて、具体的に知ることが出来よかった。
- 県によって様々な学校の状況があることを感じた。
- 貴重なデータが豊富にあり参考になる。
- 体験活動が増加傾向にあることが明確にされた。実体験の乏しい現代の子どもにとって、この修学旅行を通しての体験活動は有意義なことだと思う
- よく統計がとられ参考になる。これからも各学校の問題点とその解決法が見てとれるようなアンケートを工夫するとともに協力していきたい。
- よくまとめられていた。出発地から旅行先までの所要時間、ロス時間(待ち時間等)についての調査は?
- 具体的に、何をどのように活動しているのかわからない。
- 2年後の実施を予定している担当学年の修学旅行計画に際し、このデータ・アンケートの結果は大変有意義で参考になる。
- 具体的でよくわかる報告であり、今後生きる報告であった。

危機管理について

- 時代を反映して、どのような事態が起こりうるか予想できぬだけに、危機意識への対応は大変難しい課題であると思う。指導(事前)の準備段階において、どれだけ多くの観点から生徒への指導を行うことが出来るか、また、事後の反省を次年度の学年にどのように引き継いでいくかが大きなポイントになると考える。
- 学校行事での危機管理について、今後行動細案と起こりうる危機への対応について作成してみたいと思う。それにより、より高い危機意識が育成できると思われる。
- 修学旅行そのものの異議や在り方について、学校全体できちんと考え、有意義なものになるように職員の意識をしっかりとさせていかななくてはいけないと思った。特に安全性については、万全といえる対策はないかもしれないが、きちんと対応できるようにしたい。
- あらためて校長としての危機管理意識を再認識させられた。(2)
- 危機管理の発表は大変ためになった。これから十分に取り入れ、参考にしていきたい。
- 危機意識の重要性を痛感した。
- 危機管理の重要性とそのポイントが理解しやすく、今後の修学旅行の際の良い参考となった。
- 日頃から危機に対する意識はしているつもりだが、校外における、ましてや遠方における事故・事件においてはなかなか組織的、現地における対応の困難さを感じており、大変参考になった。
- 修学旅行の危機管理について必要性を観じており、意識の徹底をはかるための時間をとってよかったのでは。

2. 研究発表について

ア これからの修学旅行を考える上で参考になった	38 (83%)
イ 参考になるものが少なかった	2 (4%)
未記入	6 (13%)

感想

- 班編成のつくり方、宿題として学習課題を明確にしている大変参考になった。
- 班別行動も班編成の段階から工夫し、充実した班別行動をさせることが大切であると実感した。生徒が納得のいく班編成ができると良いと思う。
- どうしても総合的な学習の時間を活用しなければ、いくら特別活動の中の一学校行事といっても、まわっていかない。この点、総合的な学習の時間との関連性を明らかにして発表していただき大変参考になった。総合的な学習とマッチした修学旅行の実施を方向づけられた。
- 初めての参加であったが、発表のように修学旅行についてもきちんとまとめておくことが大切だと強く感じた。教育活動の異議がより一層明確になり、しかも質の高い教育効果のあがるものとなると、深く考えた。
- どの発展も同様で、特に参考となるものはなかった。
- 体験活動と見学のバランス、修学旅行を総合的な学習の時間と位置付ける上での課題解決の方法について。
- 旅行後の取り組みは、よい内容で参考となった。本校でも生かしていきたいと思った。
- 生徒が自分で修学旅行を作り上げるといふ取り組みは素晴らしい。そこにもっていくまでの指導は大変だと思うが、旅行を終えたときの満足感、達成感は素晴らしいものがあると思う。時間的な余裕があれば、本校でも取り入れていきたい。
- 修学旅行が総合の内容の一つという感じがした。それはそれでその学校の考え方で修学旅行に生かせればよいのでいいと思うが、学校として見てもらいたいことや感じてもらいたいことは、どうなのかなと思った。特別活動と総合との関りは、指導計画に位置付けてあればいいように思うが。育てたい子どもの姿を目指すためにはどちらの時間でも、うまく使えればいいように思う。
- 旅行中はそれほど工夫できないが、総合的な学習とつなげながら、3年間の見通しをもって取組むことが大切だと感じた。
- 各県によって2泊3日の日程でありながら、その行程や生徒への意識づけが違っていることを知った。3日間班別行動を主とした発表も面白かった。
- 他教科等の関連や具体的な実践例の発表になれば良いと思う。
- 薄根中の旅行の目的意識をしっかりと持たせ、主体的な取り組みをいかにさせるかの努力が伺えた。金島中の総合的な学習の時間の一貫としての取り組みは良かったが、特別活動と総合的な学習の時間の位置づけを明確にしておかないと、あいまいな学習になる可能性もある。

- 現在の修学旅行の主流である班別活動、体験学習の様子が良くわかった。また修学旅行までの過程(1・2年の取り組み)も各学校の先生方が大切にしていることも理解できた。体験学習のデメリットも知りたかった。
- 学校規模もほとんど同じということで、両校の取り組みは参考になった。
- 両校とも、一年生のうちから計画的に3年間の流れとして修学旅行をとらえており、大変参考になった。
- 1年生から計画的に体験的学習を取り入れて実施し、系統的に行われていることがわかり参考になった。できれば、ルート等の実際例も示してもらえるとさらによかった。
- 両校の発表は素晴らしかった。修学旅行を有意義な体験学習となるように、1・2年時の活動が活かされていた。
- 3年間を見通した、具体的で実践的な内容で大変よかった。自校の参考にしていきたい。
- 本校と同規模で、自校の取り組みを重ねて聞くことが出来た。総合的な学習の時間への位置づけについての研究ととらえたが、趣旨としてもう一步研究が必要と考える。3年間を見通した学校行事として検討するには、本校ではまだ検討を要する状況である。
- きめ細かな計画によって実施された修学旅行で、成果の多い行事だったと思う。自分は大希望校に勤務しているが、このような計画が本校でも実践されたと考えた。やろうという意欲は、たくさんのアイデア、新アイデアにつながるものだと感じた。
- 3年間を見通しての課題の持たせ方、課題解決の方法等参考になった。本校でも同様の方法をとっているが、多大な時間がかかり中途半端で終わってしまうのが現状であった。この発表会を参考に、今後取組んでいきたい。
- 小規模校なのでインターネットを全員が使用できる環境はうらやましい。1年生から総合的な学習で知識や体験をステップアップしていることがよくわかった。
- 体験活動を重視している点に興味をもった。
- 具体的で参考になった。
- 単年度の取り組みにとどまらず、3年間を見通した計画的な取り組みは大変素晴らしい。特に事後の取り組み「ホームページ」「旅行記」作りは参考になった。
- テーマとは異なるが、修学旅行を体験学習と位置づけ、1年生から系統的に様々な種々多様な体験学習を計画実践することで、その準備・実践・評価、とりわけ準備に多大な時間を要し日常の教育活動に支障をきたしていないか心配。
- 1年のうちから総合的な学習の時間で計画的に進められていることに驚いた。本校においても、3年間を考えた総合学習について見直す必要があると考えさせられた。自ら創る修学旅行には大変興味をもった。現在、修学旅行を計画中であるので、大いに参考にしたい。
- 各学年毎のテーマ、課題等を掲げ、次年度へという3ケ年の実施は有効であると思った。ただ、規模により、大規模校は受入れ側の体制、受け入れ先を見つけるのに困難さを感じる。

- 今年度 1 年生の担任になり、3 学期の鎌倉への校外学習担当となり四苦八苦していたので大変参考になった。特に総合的な学習の時間がとても少なく、なかなか子供たちの意欲を長期にわたって持続させることが難しい状況にあり、また、校外学習・林間学校・修学旅行だけでなく、進路学習や体育祭なども入ってくるため、3 年間の見通しどおりに進まないこともしばしばある。2 つの発表校の丁寧な説明・指導に感じさせられ、私も努力しようと思った。HP 作りやウェビング等、やってみたいことがあった。
- 本校では、3 日間のうち方面別グループ別(希望者別)行動、普段の生活班での班別行動、クラス別行動と行動形態を変えて実施したが、修学旅行のねらいをはっきりさせないと、たんなる遠足ようになってしまうと感じた。その点、発表校ではねらい・目標が一本化され、愛されるスローガンのようになっているなど感じた。目的達成に向けて、生徒一人一人が取り組めるものだと思った。
- 新しい視点や生徒の動きがあり、参考できる点が多かった。事前からの流れが、さらに今後、生徒の「生きる力」を育成していくと重ねて考えていく上で大切になっていると思う。
- 特活や総合的な学習の時間等とリンクさせながら進めたり、3 年間で系統立てて計画していく中で修学旅行を位置付けている点について参考になった。
- 3 年間を見通した計画は参考にしたい。しかし、学校行事と総合的な学習の時間を同じものとみていいのか、不安。

3. 研究発表会全般の運営について

ア スムーズな運営でよかった	40 (87%)
イ これからの発表会では改善してほしい	2 (4%)
未記入	4 (9%)

感想及び改善点

- 運営にゆとりがあり、スムーズでよかったる
- 半日の日程の中能率的な運営であった。(3)
- 研究発表会が必要なかどうか、今後検討する必要があるのではないか。
- 発表会運営は大変だったと思う。会場まで少々迷ったので、もう少し詳しい地図がほしいかった。
- 多くの関係者の心づかいに感謝。
- 発表等運営は良かったが、ホテルで実施するのはいかがなものか。公民館等公共施設での開催はどうだろうか。
- 静かな落ち着いた中での発表となり感謝(2)。
- 素晴らしい発表会の運営ありがとうございました。立地的に、また時間的には不利かと思っただ、近年にない「よい所」で発表会ができ参加者としても感謝。私自身も、自然体験、社会体験、そして大変有意義な学習体験をすることができた。
- 時間的なゆとりがあり、参加しやすい発表会であった。
- 関修委の研究発表会は必要か？
- 時間的に集まるのが大変。集まらないで、紙面発表等ではいかが。
- 会場が JR とのアクセスにやや難があった。
- 発表会場を実際の学校で行うことで費用の削減となるのではないか。また、学校で行ったほうが、他校の雰囲気知れて良いと思う。
- 遠方なので宿泊対応にしてほしい。(満室で宿泊できなかった)
- 発表には小規模・中規模・大規模での実践によって内容は違い、苦労もあるので、その辺りの発表もあってよいのでは。
- 初めて、このような現場の先生方の実践発表を聴くチャンスに恵まれた。ぜひ自分自身の実践に生かしていきたいと思う。